

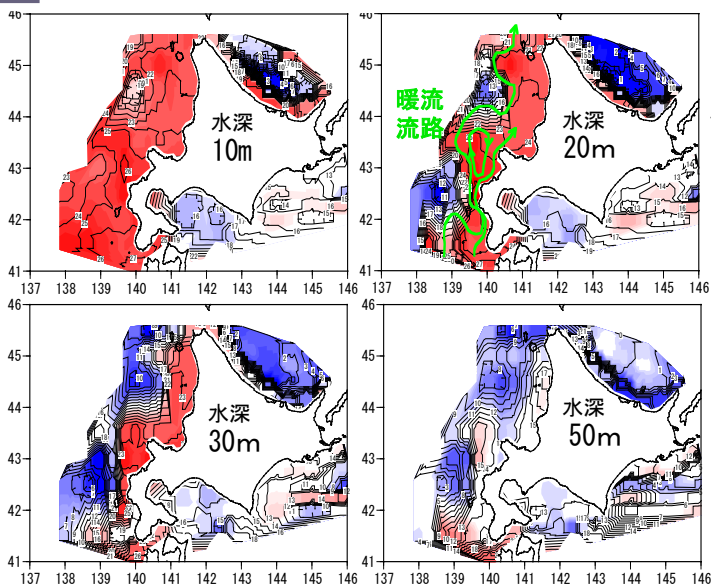
海水温や塩分濃度を調べ、水産資源の増減などの予測に役立てています

背景

- ・海環境は、魚介類の増減や移動に大きく影響します。
- ・漁況の予測などには、環境のモニタリングが必要とされています。

成果

1 平年との差（調査結果の例）



2012年10月の水温の過去20年間の平均値との差
赤い（青い）ほど平年よりも高（低）い水温です

期待される効果

- ・ケガニなど水産資源の増減および漁況の予測が可能。
- ・正確な予測によって漁業経営が安定。

2 ケガニ資源をはじめとする様々な予測

(1) 釧路東部海域のケガニ資源予測

漁獲に影響を与える冬～春の沿岸の底層水温から、資源の増減を予測しています。

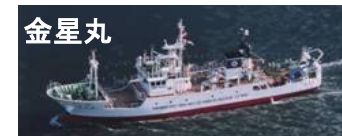
(2) 日本海のスルメイカ漁況予測

水深50mの水温が高いほど、北上が早まりますので、北海道への来遊時期が予測できます。

※漁況：漁獲される量や時期、魚の大きさなど

定期的な観測

- 1989年から2ヶ月ごとに調査をしています。
- 観測点は179点です。
- 調査船は3隻（2010年までは4隻）です。



(3) 貝毒発生予測

宗谷暖流が弱まると、貝毒プランクトンが沿岸漁場に近づき、ホタテガイに貝毒が発生します。モニタリングによって安全にホタテガイの出荷ができるようになりました。

